

風しんの予防接種

風しんは、全身に小さな赤いぶつぶつがでて、リンパ節がはれるという症状のみられる、ウイルスによる病気です。はしかよりも軽いことから、「みっかばしか」と呼ばれますが、はしかとは全く違う病気です。合併症として、まれに髄膜炎や血小板の減少による出血斑がみられることがありますが、通常は症状の軽い病気と考えられています。

ところが、妊娠初期の妊婦さんがかかると、生まれてくるお子さんに、白内障、心疾患、難聴などの症状がみられることがあります。以前は、中学生の女子だけが予防接種を受けていましたが、平成7年からは、予防接種により風しんの流行を抑えるという目的で、1才から7才半までの子が受ける対象になりました。そして、平成15年までは、中学生の男女も予防接種を受けることになっています。予防接種は、医療機関で受けられますので、学校からお知らせがきたら、できるだけ早く受けるようにしてください。中学生で風しんの予防接種を受ける率は大変低いことが心配されています。

風しんは、特徴が少ないことから、他の病気と区別がつきにくく、かかったと思っても、実はかかっていないということがよくあります。かかった人が予防接種を受けてもかまいませんので、確実にない時は、予防接種を受けるようにしましょう。今、一度、お子さんが風しんの予防接種をすまされたどうか再確認して下さい。

平成10年5月

西垣 正憲